

平成30年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立 中央小学校
-----	------------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
教育目標「あたたかく かしく たくましく」の実現 ・豊かな心を持ち、自分も他人も大切に、仲良くできる子の育成 ・自らの考えを持ち、互いの考えを聴き合い、学び合いができる子の育成 ・心身ともにたくましく、粘り強くがんばれる子の育成	職員も児童も地域・保護者も学びが楽しいと実感する学校づくり ○教職員一人ひとりの居場所づくり ・職員間に学び合い、支え合いの関係性の構築 ・職員の自分らしさの尊重 ○子ども一人ひとりの居場所づくり ・「授業が楽しい、学校が楽しい」と言える児童の増加 ・不登校ゼロ、いじめゼロ ○学校・家庭・地域が協働して活動する学校づくり ・通信、ホームページによる積極的な情報公開 ・CS導入に向けた熟議の開催

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。	A	・学校、学年、学級通信、ホームページの更新(目標月1回)、「校長室より」、さらに、学習の成果物の掲示などにより、積極的な情報発信ができた。また、本年度より「安心安全メール」の配信(未加入家庭5)を4月より100回以上行っている。月15日の「学校へ行こう Day」については、平均7~8名程度の来校があるにとどまっているが、学年発表やC1 グランプリ等の機会には来校者が多い。引き続き教育活動の可視化に一層努めたい。
	生徒指導	・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。 ・自分の持ち物やみんなが使う物を大切にすることを育てる。	B	・アンケート結果より、子どもたちと保護者・教職員の意識にずれがある。子どもたちは挨拶をしているつもりだが、教職員や親から見ると十分ではないように見えている。子どもたちにとって、挨拶は学校でするものであるという固定観念があるのではないかと考えられる。家庭・地域などの学校外でも積極的に挨拶を行うように啓発を行っていく。また、今年度は数値目標として、毎日挨拶を30人に返してもらうことを目標とした。これは、相手意識を子どもに持たせるためである。今後もこの取組を継続し、気持ちの良い関係づくりにつなげていきたい。 ・物を大切にしようとする気持ちは育っていると考えられる。実際に学校内での器物破損の件数は少ない。片づけの意識もできる児童が増えているように感じる。この意識を今後も継続していかなければならない。そのためには、継続的な啓発が不可欠である。教職員からの話だけでなく、委員会活動とも連携して啓発活動に努めていきたい。
教育課程	学習指導	・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。 ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。	A	・低学年、高学年も、勉強で少しでも分かることやできることが増えたという意見であった。今後、教職員が授業の中で、児童一人ひとりの理解を図り、児童がつまづきやすい所や分からない所を分かりやすく指導していくことを今後も続けていきたい。 ・児童は、家庭学習を頑張っていると答えている。教職員も同じようにとらえているが、保護者の評価は低くなっている。提出はできていても、家庭学習の質の向上を求めていると考えられる。現在、提出していることが目的になっているところがあるため、今後、量をこなすことが目的ではなく、家庭学習の目的をもう一度見直し、取組方を考えていきたい。 ・協働的な学びに関しては、高学年の児童は、友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりするなど、「学び合い」の授業が楽しいと感じていることが分かった。教職員も「学び合い」の授業づくりを行うことで、子ども達が主体的に、自分の考えを伝えたりする力や友だちの意見を聞くことができる児童が増えてきたと感じている。今後も、子ども達が主体的に、自分の考えを持つ、友だちや先生の話聞く、考えを説明する、まとめるといった力を高める授業づくりの研修を深めていきたい。また、児童が意欲的に学習参加できる授業づくりをしていく。
課題教育	人権教育	・全領域における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を持つことができるように努める。	A	・人を大切にするためには、まず、聞くことを大切にして1年間取組を続けた。1学期・2学期の半ばまでは、集会時に「目をつなぎましょう」と声かけをしていたが、次第に、目をつなぎ話し手に体を向けて聞ける子が増えてきた。「ほんわか言葉」「中央っ子のいいね」をメッセージカードで伝える活動では、たくさんのカードが届き友だちとのよい関係がうかがえた。1月の人権総合発表会では、学習したことから自分の生活に生かしていきたいことを伝えた。今後、生活の中で自分も友達も大切にしていける子どもに育ってくれるよう支援していきたい。
※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育 ※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)				
領域	観点例			
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等			
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等			
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等			
※達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善				

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
・「安心安全メール」は、知りたい情報が頻繁に入ってくるので役立っている。 ・施設面では、防犯カメラをつけたり、門扉を常時閉じたりするなどのことも考えてみてはどうか。
・あいさつについて、アンケートで保護者や教職員の評価は高くないが、地域では、挨拶をよくしてくれるようになったと感じる。 ・高学年が下級生をうまくリードしながら、穏やかに登下校できている。また、グリーンベルトが整備されてから、安全に歩けるようになってきた。 ・図書室の本の状況を見れば、子どもたちのものの扱い方がよくわかるが、とてもきれいに使っている。
・スマホが普及し、活字離れが顕著になっている。新聞や本を読む子を増やしてほしい。 ・家庭学習が同じ内容、同じ分量になることの弊害もある。自律して課題に取り組む子を育てるために、家庭学習のさせ方について十分検討してほしい。 ・教室の学習だけでなく、校外学習も大きな教育的効果がある。良いものを見ると生涯にわたって心に残る。子どもたちをいろんなものに出会わせてほしい。
・人を大事にするには、まずは自分自身を大事にできないといけぬ。協調性を求めるあまり、自己主張を抑えていることも考えられる。 ・互いの意見を尊重し合うためにも、各自の意見を出し合い、議論する時間をつくってほしい。
自己評価の実施方法についての評価 ・年2回アンケートを子どもや保護者から取り、分析していて、わかりやすい。 ・子どもが落ち着いて学校生活を送っていることが、自己評価からもわかる。
学校関係者評価のまとめ ・安心安全メールやHPの更新等、開かれた学校づくりについて評価できる。 ・子どもたちの互いに認め合う意識が高まっていることは評価できる。次の段階として、自己主張でき、それを認める関係づくりに尽力してほしい。 ・CSを活用して、よりよい学校運営に努めてほしい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について ・コミュニティ・スクールを活用し、開かれた学校づくりとともに人権教育を充実させる。 ・個々の自律に向けて、授業の中での課題の取り組ませ方、家庭学習について改善を図る。 平成31年2月22日 学校名 丹波市立中央小学校 校長名 西田隆之 印
